

『仙台多文化共生センターだより』

各言語版の「相談員コーナー日本語訳」を紹介しします。

2024年度Vol.2のテーマ

：仙台多文化共生センターで働いてみて思うこと

英語

相談員E

ここだけの話ですが、職員の間では「多文化共生センター」のことを「タブセン」と言えば通じます。なんでも略すJK（女子高生）の文化から影響を受けているのでしょうか。

次ご来館の時、職員にぜひ使ってみてください。

やはり日本に住む外国人は、こうした耳慣れない単語にぶつかることが多くあります。

私は多文化共生センターで働いてみて、外国人の多くの悩みが言葉の壁が原因であることに改めて気づかされました。

センターの大きな仕事の一つはその壁を越えるためのハシゴになることです。

私はいま言葉の支援をする側だと言っても、日本に来て間もない頃、制度や用語、対応に必要な敬語について本当に知りませんでした。そういう状況では、ハシゴになるのがかなりハードな任務でした。

その中で、特にハードモードだったのは、「専門相談会」というものです。専門相談会では、私が通訳で相談者と専門機関の間に入ります。様々な専門機関との相談会がありますが、私はもちろん、税理士でも弁護士でもないの、用語や制度の予習がいつも欠かせません。

最初、とにかく覚えてたの専門用語をぎこちなく話に織り込んでなんとか乗り越えてきましたが、終わるたびに「あそこがだめだったな…ここが悪かったな…」とひとり反省会に陥っていました。毎回そこから私を救いだした言葉は、相談者からの「ありがとう。助かった！」でした。

私は今でも言葉の壁に繰り返し高速衝突するような毎日ですが、この仕事で同じ境遇の外国人の力になることにとてもやりがいを感じています。そのため、もっと丈夫なハシゴになるよう、これからも頑張っていきたいと思っています。

それでは、また『タブセン』で！

中国語

相談員I

多文化共生センター相談員の仕事を引き受けたのは2年前ですが、SenTIAとのご縁は前身のSIRA（仙台国際交流協会）時代からの20数年前になります。当時は仙台に引っ越してきて間もなく、宮城県沖地震が近いうちに高い確率で発生すると聞き、いざという時に家族を守るため、町内の防災訓練に幼稚園児の息子二人を連れて参加しました。その時、中国人留学生も大勢参加していて、日本語の説明の分からない留学生に思わず

通訳してあげました。その後、留学生を引率したSIRAスタッフから災害時言語ボランティアのことを聞き、即登録しました。

災害時言語ボランティアに登録してからは、国際センターによく訪ねるようになりました。交流コーナーの研修室での研修会や交流イベントの参加、留学生のための防災研修会での通訳、地球フェスタで皆さんとステージでの演出など、沢山の思い出が、この場所に詰まっています。東日本大震災の時、交流コーナーに災害時多言語支援センターが立ち上げられ、翌朝駆けつけたところ、交流コーナーはいつもの雰囲気とはガラッと変わっていました。非常電源を使った薄暗がりのなか、SIRAスタッフや他のボランティアの方々と共に被災者安否確認の電話を受けたり、避難所に出向いたり、ラジオ局に多言語放送に向かったりしていました。これも国際センターでの忘れられない思い出となりました。

震災後、国際センターに立ち寄る機会が少なくなりましたが、2年前に多文化共生センターの相談員になって、また国際センターに通うことになりました。広瀬川と国際センター近辺の景色がとても素敵で、四季の変化を楽しみながらウォーキング出勤するのが、月2～3回の楽しみです。多文化共生センターが国際センターから移転すると聞いた時、寂しい気持ちが湧いてきましたが、国際センターと緑彩館を含む青葉山公園周辺が今後大きく変わるそうで、休日にまたこの辺を訪ねようと思っています。

## 韓国語

相談員Y

多文化共生センターで相談員として仕事をしていると、仙台で生活しているたくさんの外国人の文化や言語などに接する機会がたくさんあります。私が思ったよりも、仙台には世界の色々な国から様々な理由で日本に来ている外国人がたくさんいることに驚きました。以前より私の世界が広がったと思います。

そして、生活の中で経験するトラブルや悩みなどを一緒に話しながら、私が日本に来たばかりのときのことを思い出しました。例えば、私が日本に来てすぐ、ゴミを指定日の前夜に出してしまって、次の日カラスや猫のせいで大変なことになっていたことがありました。そのときのことを、粗大ごみの捨て方を外国人相談者に案内しながら、思い出しました。事前にゴミ捨てのルールを知っていたら良かったと思いました。

あと、自分が日本語ができなくて制限がたくさんあったときのことを考えると、日本語教室の情報は外国人にとってすごく大事な情報だと常に感じます。

もちろん、弁護士、税理士などの専門家への相談もありました。困っているときこそ、誰かが話を聞いて、一緒に解決方法を考えてくれるのは本当に心強いと思います。

これから場所は変わりますが、外国人が暮らしやすい仙台になるようにお手伝いしていけるように頑張ります。

## ベトナム語

相談員NB

私は2024年の8月にベトナム語相談員として、多文化共生センターで働き始め

ました。最初は、相談員の仕事はただ相談に乗るだけだと思っていましたが、働いてみたところ、相談だけではなく、翻訳やセンター内の様々な業務もするようになりました。メインの役割はベトナム語相談員なので、基本的にはベトナム人の方からの相談を受けることが多いと予想していましたが、実際にはベトナム人からの相談はそれほど多くはないと感じています。代わりに、来館された方に対して、英語や日本語で対応することが多くあります。この仕事を通じて、日本語の多様な表現やスタイルを知ることができ、とても楽しいと感じています。特に、日本語を少ししか話せない方に対しては、やさしい日本語でゆっくり話すことが大切だと分かりました。私は普段、母語でも日本語でも早口で話してしまうため、ここで働くことが、私自身の話すスピードを落とす練習にもなっています。また翻訳の業務では、日本語を理解することが難しいのはもちろんですが、それを正確にわかりやすいベトナム語に翻訳することは、日本語そのものよりも難しいと感じました。相談員としての勤務経験はまだ浅いですが、今後も努力していきたいと思えます。

## ネパール語 (相談員B)

私が日本に来た時、私の日本語が不十分だったのでとても不安でした。しばらく経って、知り合いから国際センター（交流コーナー）のことを知り、そこに行けば困っていることを相談できる事を知りました。当時は、多文化共生センターではなく国際センター（交流コーナー）として知られていました。さみしく感じた時には必ずここへ来たので、何度も利用しました。多言語の小説や雑誌、本もありました。その当時は、今みたいにすぐに情報を理解することができなかつたので、国際センターに行って、職員に聞いたり、情報をもらったりしていました。また、児童室もあったので、子供たちも連れて来て遊ばせたりしていました。国際センターが楽しくて、子供が家に帰る時に泣いたりしていたこともありました。私もここに来ると嫌なこと忘れて、落ち着ける場所で、私にとっては、多文化共生センターはなくてはならない存在です。

いま私は多文化共生センターで相談員として働いています。最初は仕事を上手くできるかどうかとても不安でしたが、分からないことは他の職員に聞いたり、アドバイスを受けてきました。色々な相談を受けてきましたが、相談者が相談後に納得して帰ると、私もやりがいを感じました。相談員になってから、私が相談者だった時にはわからなかったことをたくさん知ることができました。土日祝も相談できるのは、外国人にとっては本当ありがたいと思えます。多文化共生センターが国際センターのなかから他の場所へ引っ越すことで私は寂しい気持ちになりますが、国際センターに「本当にありがとうございました！」と言いたいです。